

中部の文芸

俳句

加藤かな文

を紹介しよう。

「平和の俳句」が、本紙朝刊の一面に連載され始めてまもなく半年。十三日の朝刊にその「平和の俳句」が第十二回みなつき賞に決まったとの記事が載っていた。同賞は、超結社の同人誌「一件の会」がすぐれた句集や俳句関係の出版物の作者に対して贈る賞。とびきりの目利きたちによる選考に大いに納得した。

同日の紙面には、名古屋本社発行エリアから投げされた、五月分の応募作品のうち百八十句(後藤昌治氏選)が掲載されていた。七歳から九十四歳までの作品が並び、圧倒された。俳句は、一つのテーマのもとに、これほど幅広い年齢層の人々が向き合える場となるのだ。心に残った句

小さな俳句は、そうしたこととても苦手とする文芸だと思っているから。「平和の俳句」から続々と佳句が生まれているのに驚いた。

- ・水仙のきりりと平和資料館 (日進市) 稲田浩治(71)
- ・啓蟄や抱けば抱けそな兵の墓 (松阪市) 小西幸一(81)

「俳句甲子園」地方大会

・百歳の囲まれてる花むしろ (蒲郡市) 新津富子(73)

レベル高い高校生作句

百八十句すべてから平和への熱い思いが伝わってくる。それでも、俳句としての完成度を求めているのが私のさもしいところ。正直に言えば一人の俳句作者としての私は、社会的なメッセージを俳句に詠み込むことはしない。

会。各地方大会で勝ち上がる。八月に松山市で行われる全国大会に出場できる。試合のルールは以下のとおり。五人で一チームを作り、あらかじめ用意してきた俳句で優劣を競い合う。お互いの俳句についてディベートを行い、それも得点に加算される。正真正銘の俳句の団体戦だ。今回初めて審査員を務め、俳句に

青春をかける高校生の熱気と、その作句レベルの高さを目の当たりにした。俳句は大人の文芸。普段の私にはそんな信条があるのだが、それをすっかり忘れて興奮した。

- ・遠足のバスの膨らむ岬かな (名古屋高校) 鶴田脩己
- ・朧夜や弟の吹くハーモニカ (西尾東高校) 金澤歩惟

当日の作品より。海が見えたとときの車内のはしゃぎぶりをへ(バスの膨らむ)と活写する鶴田君。金澤さんの描く姉弟の情景に心が温まる。

参加六チームから優勝チームと最優秀句が決定した。大会事務局に確認したところ、結果の公表はまだ控えてほしいとのこと。来週には発表されるそうなのでお楽しみに。愛知県豊田市の小原カイドポランティア代表・山内克士氏より『第三回おぼろ杉田久女俳句大会 俳句集』(非売

〈新刊の句集、句誌は中日新聞文化部と次の評者あてにお送りください。〒4700113 愛知県日進市栄3の1307の3の602、加藤かな文〉

品)が届いた。昨秋の「四季桜まつり」期間中に表彰式が行われた。選者は伊藤敬子氏と島津余史衣氏。杉田久女賞受賞作は以下のとおり。

- 一般の部
- ・山樞の刈田を視野に久女恋ふ

- ・(知多市) 村田浩子
- 小中学生の部
- ・入道雲山にどっしりすわってる

(小原中) 林 蕪音 印象的なのは豊田市小原地区の小中学生の作品数の多さ。俳句を通して真世代間交流が順調に進んでいるようだ。